

# 令和5年度診療科別目標発表

---



## 眼科

# 眼科スタッフ紹介

## 眼科

外来看護師 4名

視能訓練士 5名



No.	氏名	役職等
1	浅川 卓也	医長 眼科専門医
2	伊部 友洋	医員
3	南 幸佑	医員
4	坂本 浩一	医員

※京都府立医科大学より緑内障 森和彦医師(3ヶ月毎)、角膜 稲富勉医師(3ヶ月毎)、眼形成 渡辺彰英医師、中山知倫医師(毎月)、網膜硝子体 寺尾信宏医師(毎月)を招聘

# 診療実績

## 眼科

診療実績	令和2年度	令和3年度	令和4年度
外来患者	74.2 件/日	76.6 件/日	74.2 件/日
入院患者	8.6 件/日	7.9 件/日	7.5 件/日
新入院患者	64.3 件/月	58.5 件/月	61.5 件/月
総手術件数	104.8 件/月	102.7 件/月	110.0 件/月

- コロナ禍による日帰り手術件数増加に伴い、入院患者数減少
- 手術の低侵襲化に伴い、入院期間も短縮傾向
- 総手術件数は増加傾向

# 手術件数

## 眼科

手術件数	令和2年度	令和3年度	令和4年度
白内障	767 件/年	785 件/年	792 件/年
網膜硝子体	221 件/年	205 件/年	182 件/年
緑内障	81 件/年	87 件/年	<b>177 件/年</b>
眼形成	96 件/年	87 件/年	69 件/年
その他	92 件/年	84 件/年	101 件/年

- 低侵襲緑内障手術の導入により、緑内障手術件数が増加
- 白内障、網膜硝子体の手術件数はコロナ禍でも大きな変化はなし

# 中期目標・令和9年度に目指す姿

## 眼科



### 静岡県の眼科中核病院へ

- 京都府立医科大学と連携し、角膜、網膜硝子体、緑内障、眼形成疾患などさまざまな症例に対応
- 網膜硝子体手術を中心とした眼科急性期病院としての役割
- 多焦点眼内レンズ・乱視矯正眼内レンズを使用した質の高い白内障手術

## 外来診療機器

### 光干渉断層計(OCT)



Topcon Dry OCT Triton®  
引用 : Topcon Healthcare ホームページ

- 2018年9月導入
- 詳細な網膜断層の把握
- 網膜疾患・緑内障の診断・治療に必須
- OCT-Aも撮像可能

### 広角眼底写真



Zeiss Clarus 700®  
引用 : Zeiss ホームページ

- 2020年9月導入
- 鮮明な広角眼底写真撮影
- 網膜疾患・緑内障の診断・記録に必須
- 蛍光眼底造影も可能

### 前房蛋白測定装置



Kowa FM-600a®  
引用 : Kowa ホームページ

- 2022年1月導入
- 前房内炎症検査
- 内眼術前後の炎症の評価
- ぶどう膜炎の評価

## 外来診療機器

### 光学式生体計測装置



Zeiss IOL Master 700®  
引用：Zeiss ホームページ

- 2016年5月導入
- 白内障手術時の正確な  
眼内レンズ度数算出検査

### 白内障手術ガイドシステム



Alcon Verion®  
引用：Alcon ホームページ

- 2021年7月導入
- 白内障手術時の乱視矯正  
眼内レンズの術後成績向上

### 眼科電子カルテ



NIDEK NAVIS-AZU®  
引用：NIDEK ホームページ

- 2024年1月更新予定
- 眼科専用の電子カルテ
- 眼科検査結果の比較や  
参照が容易に行える

## 手術機器

### 手術顕微鏡



Leica Proveo8®

引用：Leica Microsystems ホームページ

- 2021年5月導入
- より高解像度の観察が可能  
繊細で安全な手術に貢献

### 白内障手術機器



Alcon Centurion®

引用：Alcon ホームページ

- 2023年6月導入
- より低侵襲で安定した  
白内障手術が可能に

### 硝子体手術機器



DORC EVA®

引用：DORC ホームページ

- 0.5mm以下の極小切開  
網膜硝子体手術



## 眼科

### 決 意

#### ご紹介頂いた患者様

- 正確な診断と治療
- 他科との連携
- 安定した段階でのすみやかな逆紹介

#### 眼科緊急疾患

- 常勤医4名による常時受入体制の維持
- 必要に応じて緊急手術での対応

#### 眼科手術

- 新規手術機器の導入
- 低侵襲な術式の導入
- 京都府立医科大学との連携による難症例疾患への対応

静岡県中部における眼科中核病院としての責務を果たして参ります

### 緑内障についての記事を掲載いただきました

中高年の失明率第1位「緑内障」  
「隠れ緑内障」  
早期発見のカギは定期検診

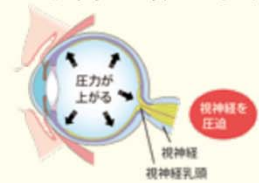
6月7日は「緑内障を考える日」。緑内障を早期に見し、治療につなげるため、定期的に目の検診を受けましょう。◎市立総合病院 ☎646・1111

緑内障は一度起きてしまうと、回復することのない病気だからこそ、早期に発見し、治療を適切に続けていくことがとても大切です。



藤枝市立総合病院  
眼科医長 浅川 卓也 医師

緑内障は、目から入ってきた情報を脳に伝える神経(視神経)に障害が起こり、視野(見える範囲)が狭くなる病気で、治療が遅れると失明に至ることもあります。日本では、40歳以上の20人に1人、70歳以上の10人に1人がかかる目の病気です。



眼圧と視神経の圧迫

「隠れ緑内障」とは  
緑内障の進行はともゆっくりで、脳には視野に欠損があってもそれを補う仕組みがあるため、病気がかなり進行するまで、自覚症状はほとんど現れません。そのため、「隠れ緑内障」の人が多いのが特徴です。

眼圧が高い人は特に注意  
緑内障は眼圧(眼の硬さ)が高くなり、視神経が圧迫されることによって引き起こされます。しかし、日本人は眼圧が正常範囲内でも緑内障になる「正

常眼圧緑内障」が多いため、眼圧が正常でも注意が必要です。

緑内障の検査と治療方法  
両眼に空気を吹きかける検査や、眼に光をあてる検査を受けたことはありませんか？これらは眼圧や眼底の異常がないか確かめるための検査です。検査で異常があった場合は、再検査で視野検査などを行います。

緑内障の治療は、まず点眼薬から始め、外科的治療を検討します。緑内障の検査や治療は基本的には生涯にわたって必要です。  
一度障害を受けた視神経は元に戻らないため、緑内障による視野障害を完全に回復することはできません。しかし、適切な治療を行うことで、視野障害の進行速度を遅らせることは可能です。

定期的な検診で早期発見を！  
緑内障は本人が自覚しにくい病気です。一年に一回程度、地域の眼科や眼科検診のある人間ドックで検診を受けましょう。